

とある厨二病観察レポート

II 三浦俊介

平成 22 年 10 月 3 日

—私が知っているとある二人の厨二病を観察してみた。—

1. はじめに

中二病とは、14 歳前後で発症することが多い思春期特有の思想・行動・価値観が過剰に発現した病態である。

多くは年齢を重ねることで自然治癒するが、稀に慢性化・重篤化し、社会生活を営む上で障害となることがある。

特異的な身体症状や臨床所見は見出されていない。

そして厨二病とは、中二病のうち、その行動・言動の元となるものがゲーム・アニメ・漫画・ラノベ等、いわゆるオタク文化である場合は特に区別して厨二病といわれることがある。また、単に中二病のさらなる蔑称として使われることも多い。厨二病の一種として邪気眼がある。(ニコニコ大百科より引用)

2. 観察場所

今回、二人の厨二病が語り始めたのは Skype 上でした。その時私はその二人合わせて三人でグループを作り、某動画サイトにあげるための動画作成についての会議を行っていました。

3. 観察結果

注意；ここでは名前を伏せるために厨二病の二人を C 君と I 氏にしています。

それは、とある夜の出来事でした。

私たちが動画撮影に向けての会議をしていたとき・・・

I 氏：ビデオキャプチャーは私が用意します。

I 氏：GV-USB というものです。

C 君：面白い物をお持ちだ。

C 君：ほう、これは実に興味深い.....

I 氏：私が実況をあげる時に使うと思って用意していたものですが、ここで本領を発揮するとは・・・

C 君：これは面白い。この 1 つの情報で私にはいくつもの構想が浮かんだ。

私：さすが IQ100 の C 君だ。

I 氏：凡才・・・いや、稀に見る鬼才かもしれない・・・

C 君：一人で 1000 の戦艦を沈めた男の娘だ。

I 氏：・・・あのお方のお嬢さんでしたか・・・名前は確か・・・

C 君：貴方に私の名が知られているとは・・・私もまだ捨てたもんじゃないらしいな。

ここで一旦厨二タイム終了。ウォーミングアップが出来たみたいです。

次は私がある絵(右図)を見せた直後の反応、

私：ラフ。

C君：良くある感じだな。

I氏：タイトルが。

C君：こいつウツな。

I氏：これはいい意味で化けそうですね。

C君：楽しみに待つか。奴が熟すのを。使えなければ……………中尉、始末しろ。

I氏：そういえば少将、あの斬艦刀の男のお嬢様が近頃暗躍していると聞いたのですが……

C君：ほう……………あのお嬢さんがか。

I氏：はい、反ツオルネ派の筆頭——マキャベリック大佐と密会を行った、と。

C君：あの野郎……………!? 斬艦刀を味方につけるか?!

I氏：彼は野心家です、やりかねません。今は部下に監視をさせていますが、どうなさいますか?

C君：だが確実な証拠をなしに動いてもまずいであろう。確実な証拠をつかむほかあるまい。

あの娘を殺してみろ。我々も危ないからな。

I氏：……………分りました、こちらは引き続き監視を行わせませう。情報が入り次第お伝えします。

I氏：チルダ・アレストイ……………斬艦刀の娘にして革命統合軍の一等参謀官……………恐ろしい親子です。

C君：さて、中尉、そろそろ我らも祭を始めようとしようか。

そうだね、会議進まないもんね。さて次です。

次も会議中、突然発生しました。

C君：さあ！罪深き囚人どもよ！あるべき物語り（セカイ）に還るがよい！！

I氏：私の終着点はそんな処ではありません。私の還るべくは地獄……………劣情と恐怖が堆積するセカイ……………

C君：フッ……………貴様はまだ地獄などには逝かせん。運命という螺旋の中、まだ働いてもらうぞ。貴様の物語りの続き……………としてな。

I氏：私の免罪符はまだ揃いませんか……………いいでしょう、この狂った茶番劇の顛末とやらを拝ませてもらいます。

C氏：……………運命の矢は放たれた。後は風と大地の機嫌次第。さあうまく飛んで見せろ。私を楽しませる、一中の矢としてな。

私：おわった？（←飽きてきた）

I氏：設定は私としても謎なのですが、なんかに使えそうです。

C君：俺もよく分かってない。

I氏：私的にはおわりました。

I氏：勝手な解釈ですが。

I氏：C君が演じていたのは革命軍側の偉い人、私が演じていたのは斬艦刀のおっさん。



図 1 「幼女 1」

I氏：以上、QED

C君：スターボウブレイク！

I氏：斬艦刀をアリュージャに始末させておけ。

C君：俺はマキャベリックを。

I氏：了解しました。しかし彼女が命令に従うでしょうか・・・

C君：心配なら中尉も行くかい？ 私はそれでもかまわぬがな（中田 譲治風）

I氏：分かりました、私も同行します。これで我々が本気ということが分かるでしょう（成田 剣風）

C君：第11柱を空にするのは好かんがそうも言ってられんだろう。

I氏：第11柱ーデューク・アストレイ・・・彼ほどの人物でもここまで墮ちるものですね。

C君：しかし私や中尉、アリュージャまでもが我々の第・・・柱（何柱なんだろう・・・）を空にして良いのだろうか。

I氏：我々の組織の鋼の掟・・・「背忠者には断罪を」、というのをお忘れで？

C君：かずのこ：主力陣を柱に残さず我々が出てしまうのはいかほどな物と思っただけだ。

どこの室部長は第七補完区だシエルレイアは今大本営会議だ。

I氏：それでしたらあの腐った科学者達が造った特殊部隊を要請しますか？ 多少の時間稼ぎにはなるはずです。

C君：あいつを使うのか。確か二つ名を・・・

I氏：はい、殺戮機工隊(トゥルーキリングズ)・・・鉄の断罪人。

C君：ふーむ・・・、今だから言うが私の武器を作ったのもやつだ。そしてあのマキャベリックそしてアストレイの武器もだ。

I氏：流石は睡眠を知らない科学者、のことはあります・・・今の話は始めて聞きました。

C君：風の噂だがあの斬艦刀も世話になってるらしい。これはカオスな長期戦になりそうだ。

I氏：では私は科学局への伝達及び作戦の準備を行いますので失礼します。

C君：ああ、生きて帰れよ。生きることがお前の任務だ。

I氏：・・・と言うわけで就寝の時間となりましたのでこれにて失礼しますーノシ

私：ッ

あ、ホントに寝ちゃった(笑)

4. 考察&まとめ

この会話を理解するにはある程度知識を持つて人か同じ厨二病の人しかいない。実際私は二人の会話が理解できなくなり口をはさめず、終いにはゲームを始めちゃいました。まとめは「観察者はあまり面白くない」です。これが他の人から蔑まれた目で見られる原因かもしれませんね。だからといってその人たちを遠ざけるような真似はしないでください。